

The 23rd JUACEP Seminar

第 23 回 名古屋大学日米協働教育プログラムセミナー

ミシガン大学における産官学連携の 事例について

(対象：教員・学生 言語：日本語)

日時：2015 年 2 月 2 日 (月) 15:00～

場所：IB 011 講義室 * 事前申し込み不要

講師：倉林活夫 教授

ミシガン大学工学部 機械工学科

電気工学・コンピューターサイエンス科

略歴：1992 年東京大学工学部精密工学科卒。1994 年スタンフォード大学材料科学部修士号、1998 年同大学 Ph.D 取得。その後スタンフォード大学研究員を経て、2000 年 1 月よりミシガン大学に赴任。現在の研究テーマは、生体・医療・環境分野の先端計測マイクロ・ナノデバイス及びナノプラズモニックバイオセンサーの開発と基礎研究。こうした研究分野で 5 つの米国特許取得と 100 本以上の論文・著書執筆。2001 年米国科学財団 (NSF) Early Faculty Career Development (CAREER) 賞、2005 年ロバート・キャデル記念賞、2007 年 Pi Tau Sigma 最優秀教授賞、2013 ミシガン大学機械工学最優秀研究達成賞受賞。

1980 年代初頭から続く科学技術におけるイノベーションと製品化との乖離によって、ハードウェアにおける米国のイノベーションエンジンは活力を失った。このイノベーションエンジンの復活の鍵として、大学・国立研究所レベルの基礎研究と民間レベルの製品開発とのギャップを埋めるメカニズムが模索されている。そのメカニズムとして、21 世紀の米国大学が追求するものが Translational Research (技術移行研究) である。このセミナーは、米国が 21 世紀の製造業大国復活に向けた国家的戦略と、それに付随した産官学連携の取り組みをミシガン大学における事例をもとに紹介する。ミシガン大学産官学連携研究センターの例として、(1) 米国科学財団 (NSF) による Research Center for Wireless Integrated Microsystems, (2) 国立衛生研究所 (NIH) による Network for Translational Research, (3) US-China Clean Energy Research Center, および (4) Advance Battery Coalition for Drivetrains における研究・教育活動に触れる。

Inquiry: JUACEP Office, Grad School of Eng. (Ext. 2799)

問合せ: 工学研究科 JUACEP 事務局 (内 2799)